

令和7年度 第4回 草津市スポーツ推進審議会 会議録

■日時：

令和7年12月22日（月）18時00分～18時55分

■場所：

草津市役所6階 教育委員会室

■出席委員：

岡本委員、杉田委員、平尾委員、中野委員、小川委員、稲田委員、板坂委員、庄司委員

■欠席委員：

小傳良委員、吉野委員

■事務局：

教育委員会事務局 奥谷理事、安藤副部長

西田副部長（学校教育課長）

学校教育課 中村主査

スポーツ推進課 遠藤課長、高倉課長補佐

■傍聴者：

0名

1 開会

【事務局】

本日は何かとお忙しいところ、第4回草津市スポーツ推進審議会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、本日は前回の審議会をはじめ、市内部や市議会からの意見を踏まえて作成しました第3期計画の最終案をお示しさせていただいております。本日の審議会の内容を踏まえて最終確定とさせていただき、後日、改めて岡本会長より答申をいただいた上で、年明けにパブリックコメントを実施したいと考えております。

本日は、限られた時間の中ではございますが、御審議いただきたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2 審議案件

(1) 第3期草津市スポーツ推進計画(案)について

【事務局】

資料1～4に基づき、第3期草津市スポーツ推進計画(案)について説明

【事務局】

資料2と資料3の間で内容に不整合があるが、資料2の内容を最終案として取り扱って頂きたい。

【会長】

私は長年この仕事に携わっているが、今回の整理は非常に分かりやすくなっていると感じる。第1期・第2期計画は分かりにくい点があったが、第3期計画は市民が読みやすく、説明も丁寧である。

前回の審議会からの変更点は先程、事務局から説明のあった通りだが、今回の審議会では基本的には変更を行わず、来年4月から計画がスタートするにあたり、実務を進める上で留意すべき点や助言、事務局に対するマネジメント強化の要望があれば伺いたい。

【委員】

前回から大きな変更はないので特に意見はない。

【委員】

同様である。アンケート調査結果の内容が本資料にも盛り込まれていると思っている。

【委員】

直接関わる事項ではないかもしれないが、資料2の1ページの「子育てや働き世代に対する参加促進」について、子どもがいるために親がスポーツに親しめないという障壁を解消する必要がある。

そのためには、親が活動に参加している間に子どもがスポーツを行える機会や場を設けることが重要であり、子ども向けのプログラムや託児的な支援があれば、子育て世代の親も参加しやすくなると思う。

【事務局】

現在も一部実施しているが、親子参加型イベントの開催や親子で一緒にできるスポーツ種目の展開など、親だけでなく子どもも一緒にスポーツを行える機会を提供し、その結果、子どももスポーツを好きになるような取組を進めていきたいと考えている。

【会長】

逆のバージョンも考えられる。

【委員】

「+10（プラステン）」は、定年後の世代でも取り組みやすい内容であり、子育てや働き世代に限らず、幅広い年齢層に広げるべきと考える。様々なケースを想定した事例や簡便な実施手順を提示することで、日常のちょっとした機会に意識的に運動を行う動機付けが図れると考える。

【会長】

非常に重要な事項である。本日、審議会開始前に「YMI Tアリーナや草津市立プール等の施設における多様な情報発信の重要性」について事務局と意見交換を行ったところであり、具体的には「+10（プラステン）の紹介」等のプログラム情報を常時発信することで、草津市の特徴として打ち出せないかと話し合った。

そのためには、指定管理者の役割が重要になるとともに、事務局側もより積極的に提案を行っていく必要があると考える。

【事務局】

アンケート結果では、「情報を十分に得られているか」という問いに対して「不十分」とする回答が多く見られた。また、「情報を入手しやすい方法」の問いに対しては、「広報誌」や「ホームページ」とする回答が多かった一方で、「SNS」等のニーズも高い状況であった。

このことから、草津市単独ではなく、指定管理者や関係団体と協力し、広報誌・ホームページ・SNSを含む多様な媒体で継続的かつ効果的に情報発信を行うことが重要だと考えているところである。

【会長】

計画に掲載のある所属だけでなく、他の所属や地域組織との連携が重要である。例えば、まちづくり協議会などと連携しながら、中高年層に向けた情報発信を強化することが求められる。多様な経路で情報を届けることで、対象世代への周知と参加促進が図られると考える。

【委員】

資料2の2ページの「日常・家事の+10」の「家事をしっかりする」と「休日の+10」の「自然のある公園でリフレッシュ」という表現について、意図が不明確である。家事を「しっかりする」と記す意図が伝わりにくく、受け手によって解釈が分かれる可能性がある。また、「公園でリフレッシュ」という表現については、公園が近くにはない住民も多く存在する

ため、特定の場所を示す語は適切でないのではないかと。より誰でも実行しやすい表現、例えば「家族との外出を楽しむ」や「自然に触れる機会を持つ」など、汎用性のある表現への置き換えが望ましいと考える。

【事務局】

表現について検討する。

【委員】

「ラダートレーニング」というのはどのようなトレーニングなのか。

【委員】

はしごみたいなものがあり、そのマスに沿って動くトレーニングである。

【会長】

中高年になるほど筋肉を速く動かすことが苦手になり、その結果として速い動作が減少し筋力低下が進むという現象がある。高齢者に対しても、できるだけ強い力を出す動作や速く動く機会を設けることが重要であり、階段は「登る」より「下る」動作で筋肉を伸ばしながら力を出すため、予防的な効果が期待できる。

ラダートレーニングは競技者向けの事例にとどまらず、一般の人でも工夫して取り入れられる運動の一例であり、普及を図るべきであるという提案である。

【委員】

「手軽にできる運動での+10」にある「用具を使って」は、自宅に用具を集めないといけないのか、それとも公園に設置しておくのかがわからない。

【会長】

お見込みのとおりで、「いつでもどこでも」というキーワードを入れたほうが良いのかもしれない。事務局と相談し、どこに記載するか検討したい。

【委員】

特に変更を求める点はなく、資料2の4ページの「総合型地域スポーツクラブ活動の活性化」に関して、今回の変更により内容や趣旨がわかりやすくなった。

【会長】

施策の一つに「スポーツボランティア活動の推進」があるが、水泳大会を開催する場合、記録担当以外にボランティアはどのような場面で関与できるのか。

【委員】

基本的にジュニア大会ではボランティアを必要とせず、資格を有する者が運営を担っている。ただし、規模が大きくなる大会ではインターンや地域の中学生・高校生が補助に入る例がある。具体的には、競技直前までジャージを着用している選手の脱衣後の荷物回収係や、表彰時のメダル運搬係などを中高生が担当する場合がある。

【会長】

加えて、国スポでは、観客の誘導と交通整理で皆様が苦勞されたところである。

【委員】

ただ、基本的にボランティアがいる大会はあまりない。

【会長】

陸上大会をはじめとする競技大会において、選手が自分の出場していない時間帯にボランティア的な運営業務を担い、競技前に不安や負担を抱えている現状がある。競技団体の役員が慣行として自ら指導していることもたちに運営を任せてしまっているが、本来は選手が競技直前に運営補助を行うことには違和感があることから、今後、計画を進めるに当たっては、「ボランティア」という言葉が独り歩きしないよう役割をより具体化し、新たな仕組みづくりによって運営しやすい体制を整え、草津市からこうした慣行を見直していくことが望ましい。

【委員】

国スポに参加された多数のボランティアについて、単発的な活動で終わらせるのではなく、今後も継続的に活動いただけるよう、将来を見据えた組織づくりや仕組みづくりを併せて検討しておくことが重要である。

【事務局】

国スポに参加いただいたボランティアについてはメーリングリストに登録しており、今後、ボランティアの活躍の場をどのように創出していくか、また、ボランティアを求める側と参加したい側をどのようにマッチングしていくかといった点について、誰が担うのが適切かという役割や適性も含めて整理し、組織づくりの観点から引き続き検討していく。

【会長】

先ほどの意見を具体的に進めていくにあたっては、スポーツ推進課だけではなく、スポーツ協会をはじめとする関係者との連携が必要となることから、関係者が集まりながら協議

を重ね、役割分担や仕組みを整理した上で全体像を描いていく必要がある。

【事務局】

取組の初動については当課が中心となって進めることになると考えられるが、円滑に軌道に乗せていくためには行政が一から十までを担うことが必ずしも適切とは限らないことから、スポーツ関係団体と十分に調整しながら、適切な役割分担の在り方を検討していきたい。

【会長】

京都の高校駅伝のように多くのボランティアに支えられ、伝統的な大会として定着している他市町の事例について、その仕組みを調査することも有効である。

【委員】

審判として競技運営に携わる場合に、資格等の要件が定められているのか。

【会長】

お見込みのとおりである。

競技団体によって資格の種類は異なるものの、基本的に審判については資格保有者が担うこととなっている。

【委員】

ボランティアに対して育成の仕組みを設けることで、将来的にそうした役割を担える人材へとつなげていくことも考えられる。

【事務局】

ボランティアを単なる人手不足の補完として位置付けるのではなく、関わること自体に楽しさややりがいを感じてもらえるような仕組みや工夫が重要であり、単純な労働力として受け取られないような見せ方についても検討していきたい。

【会長】

最後に、国スポの際に草津市のボランティアが着用していたウェアのデザインについて、あれは一度限りのものなのか。

【事務局】

一度限りのものである。

【会長】

継続しないのか。

【事務局】

国スポでは青花の柄を取り入れた「草津ブルー」を用いて取組を進めていたことから、今後大会等で新たにウェアを作成する機会があれば、そのデザインを一つの案として継承していくことも考えられる。

3 その他

(1) パブリックコメントの実施について

【事務局】

資料5に基づき、パブリックコメントの実施要領について説明

【委員】

まちづくりセンターには設置しないのか。

【事務局】

まちづくりセンターには概要版を配架し、原本を閲覧できる場所を明示の上、そちらを確認してもらう仕組みとしている。以前はまちづくりセンターにも原本を配架していたが、計画数が多いことから、現在は概要版のみを設置し、原本は配架しないという運用となっている。

【会長】

パブリックコメントの実施については、各市民に対し、複数のネットワークを通じて周知・発信されることとなっているのか。

【事務局】

お見込みのとおりである。

【会長】

計画の推進にあたっては、スポーツ協会が中枢的な役割を担うことが必要不可欠であり、期待する。

4 閉会

【事務局】

本日は大変貴重な御意見、御提案をいただきまして、誠にありがとうございました。

また、今年度におきましては、審議会を年4回開催させていただいたところですが、御多用にもかかわらず長期にわたりまして御審議いただきましたことに対しまして、改めてお礼申し上げます。

計画策定に向けた審議会としましては、今回が最終の審議会となりますが、計画が完成した後におきましても、PDCAサイクルに基づく点検評価を行いながら、計画の進行管理や、より効果的な施策とするための十分な検討を行う必要があると考えておりますことから、委員の皆様におかれましては、今後も引き続き御協力をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

それでは、これにて閉会といたします。皆様どうもありがとうございました。

以上。